

資料 1

| 学校用アンケートの作問のねらい | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Q2 : その学校の酪農体験活動実施年度の、<u>全学級数 (全学年合計のクラス数)</u>をお答えください。 (* プログラムを行ってないクラスも含めて全部で、です)</p> | <p>そもその学校規模によって、<u>学習活動に影響がありう</u>と想定している。大きすぎるクラス数、投入するスタッフ数、体験に出かける現場側のキャパシティの問題等々。活動実施に影響するであろうし、制約にもなりうる。</p> <p>それは、本活動そのものへの影響(Q4と連動)だけではなく、日常的な学校そのものの雰囲気や学習活動のフットワーク、通気性、を形作っているであろう。</p> |
| <p>Q3 : その酪農体験活動を実施した期間 (時期)をお答えください。</p> | <p>活動は、「投入と成果、その即効性」であるとか、「INPUT⇒OUTPUT」といった、単純化された図式や単線形では、実際の教育の効果というものは描ききれない。実際に、単発の酪農体験活動を行ったのか、ある程度の期間を設けて行ったものかによって効果の程度や効果が表れてくる項目に違いが生じることが想定される。そこで、活動を行った機関や時期を問うた。</p> |
| <p>Q4 : 実施した酪農体験活動は、<u>どのような“単位”</u>の活動規模でしたか？</p> | <p>「プログラムの活動規模」を問う。どのレベルの規模での活動か、それは、大きすぎるクラス数、投入するスタッフ数、体験に出かける現場側のキャパシティの問題。制約になりうる。(Q2と連動。)</p> |
| <p>Q5 : 酪農体験活動を行った牧場とは、これまでにどれくらいのあいだ活動をさせていたできてきたのでしょうか？</p> | <p>「その牧場との親和度」を測る。親和度が指標としてなににきいてくるのか探索的に設ける。また、数年間にわたる継続的な取り組みがあったのなかったのかによって、教育効果の程度が異なることも想定されるために問うた。</p> |
| <p>Q6 : 学校側で、中心となって担当していた、または、直接陣頭に立った教員は、酪農体験活動を行った当該年度には、どのような立場の先生でしたか？</p> | <p>学校側の担当がどのような属性かによって、その学習活動の進行も、実施も、大きく左右されると考えられる。実は大きな要因ではないかと考え位置づけてみた。また、教育効果を見る上で、継続的な取り組みが行われてきたのかを知るうえで Q5 都の関連で見たい。</p> |
| <p>Q7 : 実施した酪農体験活動は、以下のどの活動が含まれていましたか？ <u>あてはまるものすべてに○をつけてください。</u> 牧場への訪問が1回のみ(学年(学級)は「行った」の欄のみ○をつけてください。複数回牧場を訪問している学年(学級)は、「行った」の欄には実施が1回でもある活動に、「毎回行った」の欄には毎回行った活動にそれぞれ○印をつけてください。</p> | <p>酪農体験活動の効果は、実際に行われた活動の内容によって異なることが想定される。また、その活動が継続的に行われてきたのかによっても異なることが想定された。そこで、これまでの実践報告の中で取り上げられていた活動をすべて書き出し。その中で実際に行った活動を書き出してもらうことにより、どの活動を行ったときにどのような効果がどの程度生じていくのかを見ていこうとしたものである。</p> <p>また、行った活動が継続的なものか、単発的なものかによってことなった効果が見られるのかを見ていくことを目的に問うことにした。</p> |

資料2 牧場用アンケートの作問のねらい

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Q2: その酪農体験活動を実施した期間(時期)をおおよそで結構ですからお答えください</p> | <p>活動は、「投入と成果、その即効性」であるとか、「INPUT⇒OUTPUT」といった、単純化された図式や単線形では、実際の教育の効果というものは描ききれない。実際に、単発の酪農体験活動を行ったのか、ある程度の期間を設けて行ったものかによって効果の程度や効果が表れてくる項目に違いが生じることが想定される。そこで、活動を行った機関や時期を問うた。</p> |
| <p>Q3: 実施した酪農体験活動は、どのような“単位”の活動規模でしたか? 分かる範囲でお答えください。</p> | <p>「プログラムの活動規模」を問う。どのレベルの規模での活動か、それは、大きすぎるクラス数、投入するスタッフ数、体験に出かける現場側のキャパシティの問題、制約になりうる。(Q2と連動。)</p> |
| <p>Q4: 酪農体験活動を行った学校とは、これまでにどれくらいのあいだ活動を提供してきましたか?</p> | <p>「その学校との親和度」を測る。親和度が指標としてなににきいてくるのか探索的に設ける。また、数年間にわたる継続的な取り組みの有無によって、教育効果の程度が異なることも想定されるために問うた。</p> |
| <p>Q5: 牧場側からの個人的見解として、酪農体験活動の児童・生徒のみなさんは、主体的に動いていた(自分から働きかけていた)と感じましたか? それとも、受け身的だったと感じましたか?</p> | <p>牧場の側からある数量化された指標で、各学校の学びの実情をとらえようとしている。児童・生徒の酪農体験への取り組みの姿勢によって、その効果がおおよそ計れないかと考えて問うものである。(Q6と関連)</p> |
| <p>Q6: 牧場側からの個人的見解として、酪農体験活動を行った教員のみなさんは、主体的に計画を行っていたと感じましたか? それとも、受け身的だったと感じましたか?</p> | <p>牧場の側からある数量化された指標で、各学校の学びの実情をとらえようとしている。教師の酪農体験を取り入れた学習活動の計画への取り組みの姿勢によって、その効果がおおよそ計れないかと考えて問うものである。(Q5との関連)</p> |
| <p>Q7: 実施した酪農体験活動は、以下のどの活動が含まれていましたか? あてはまるものすべてに○をつけてください。牧場への訪問が1回みの学年(学級)は「行った」の欄のみ○をつけてください。複数回牧場を訪問している学年(学級)は、「行った」の欄には実施が1回でもある活動に、「毎回行った」の欄には毎回行った活動にそれぞれ○印をつけてください。</p> | <p>酪農体験活動の効果は、実際に行われた活動の内容によって異なることが想定される。また、その活動が継続的に行われてきたのかによっても異なることが想定された。そこで、これまでの実践報告の中で取り上げられていた活動をすべて書き出し。その中で実際に行った活動を書き出してもらうことにより、どの活動を行ったときにどのような効果がどの程度生じていくのかを見ていこうとしたものである。 また、行った活動が継続的なものか、単発的なものかによってことなつた効果が見られるのかを見ていくことを目的に問うことにした。</p> |

資料3 酪農体験活動一覧

| 実施した活動に○ | | 活動 | 活動の主な内容 |
|----------|-------------------------------|---------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 行った | 毎回行った (複数回訪 れた学校の み) | | |
| | | 牛舎内見学 | ・牛舎の中の様子や牛舎内での作業手順などを知る。 |
| | | 牛(子牛)とのふれあい | ・生後1~3カ月の子牛と散歩をする。 ・牛(子牛)をなでたり、話しかけたりする。 |
| | | 子牛の哺乳 | ・哺乳瓶やバケツを使って子牛にミルクを与える。 ・子牛に自分の指を吸わせる。 ・子牛の行動を観察する。 |
| | | 牛舎の清掃 | ・糞掻きを使って牛床にたまった糞を掻き出す。 |
| | | 給餌 | ・乾し草を直接手であげたり、散らかっている乾し草をほうきやスコップで集めて牛の口元に戻したりする ・牛が餌を食べている様子を観察する(食べぶりで健康状態を確認する)。 ・配合飼料を作る。 |
| | | ブラッシング | ・ブラシをかけて毛並みを触って確かめながら毛並みを整えたり、牛の体についてた糞を取ったりする。 |
| | | 乳搾り | ・指を使って乳搾りの練習を行う(①左手の親指を乳房に見立てる②親指の付け根を、右手の親指と人差し指でギユツとにきる③中指、薬指、小指と順番に閉じていく) ・手搾りで行い、片方の手でミルクを受ける ・ミルカー(搾乳柵)で搾乳する様子を観察し一頭の牛から搾れる牛乳の量を確認する。 |
| | | 心音や胃音の確認 | ・聴診器で自分や友達の心音を聴き、牛(子牛)の心音を聴く ・聴診器で胃の蠕動音を聴く。 |
| | | 堆肥舎見学 | ・堆肥場へ移動し、糞尿の処理と堆肥作りの説明を受け循環型の農業について学ぶ。 |
| | | 出産観察 | ・出産の様子を観察し、生まれたばかりの子牛が立ち上がるまでの様子を見る。 |
| | | ロールペール(サイレージ) | ・大きな草のロールが一瞬のうちに出来上がる様子を見学する。 |
| | | 牧草地の散策(自然を体感する) | ・雲の動きや空、水滴や水溜り、植物の観察 ・鳥の鳴き声や風の音を聴く体験を行う。 ・カエルやパッタなどの小動物とのふれあい ・寝転んだり走り回ったり、靴とばしをしたりする体験を行う。 ・放牧されている牛の健康状態を見ていく。 |
| | | 小動物とのふれあい | ・犬、羊、うさぎ、鶏、やき、ポニーなどの動物とふれあい、餌をあげたり観察したりする。 ・聴診器で自分の心音とヤギの心音を聴き比べたりする。 |
| | | 牧場の道具の観察 | ・搾乳機(ミルカー)、サブヒール、磁石、塩、耳標(イヤータグ)、ティッピングピン、ハイキューブ、ビートバルブ、配合飼料、キーパー、体重推定尺などの名称や働きを知ったり、実際に触ったりする。 ・ミルカーの口に指を入れて吸引力の強さや搾られるときの感触を確認する。 |
| | | 説明用のタペストリーを使った学習事例 | |
| | | バター作り アイスクリーム作り カッテージチーズ作り ヨーグルト作り | |
| | | 牛追い | ・牧区から牧区に移動させたり、放牧をするために牛を追いかける。 |
| | | 牛の体重測定 | ・体重推定尺で牛の胴回りを測る。 ・酪農家が体重推定尺で牛の胸囲を測る様子を見ておおよその体重を推定する。 |
| | | 生命EM生 | ・牛の凍結精液や受精卵を顕微鏡で観察する。 |
| | | 子牛を育てる | ・牛舎を整え、清掃をする ・哺乳と餌やりをする(生後1ヶ月ぐらいからミルクと草を与え、生後2ヶ月ぐらいから草のみを与える) ・糞の始末をする。 ・いつもと変わった様子が健康管理を行う。 ・子牛とふれあったり、散歩をしたりする。 |

共同研究者

- 広島大学大学院教育学研究科 教授・角屋 重樹
- 北海道教育大学釧路校 准教授・栢野 彰秀
- 宮城学院女子大学児童教育学科 教授・佐藤 幸也
- 愛知教育大学生活科教育講座 教授・野田 敦敬
- 広島大学大学院教育学研究科 准教授・木下博義
- 福岡教育大学生活総合教育講座 教授・津川 裕
- 大妻女子大学 児童学科 准教授・石井 雅幸

